

キーワードは「元気で安心の大山町」

森田町長 所信表明



「国立公園大山から日本海まで豊富な資源と歴史文化を有する大山」

町の将来はこうした財産を生かし、町民の総力で「大山の恵みを生かした町づくり」、大山恵みの里プランの実現に積極的に取り組むことが重要と考える。子育て支援や教育環境、福祉の充実を通し、「元気で安心」の大山町を目指す。

その取り組みとして5つの柱を掲げたい。

①高齢の方々が安心してすごせるまち

高齢化が進む中、保健や医療・福祉の充実が必要不可欠。特に、地域で見守り地域で支えあう仕組みづくり、サポート体制づくりが重要と考える。また、福祉・介護施設や医療機関の連携を強める。

②子育てしやすいまち

子育ての生活様式が多様化し、子供の成長過程での差が著しくなっている。

る。就学前までの子育て環境の充実に取り組む。

また保育所の環境や、地域で子供を育てる環境づくりなどを進め、中学校までの医療費助成を実施する。

③ひとにやさしく、安全安定のまち

人権問題は互いに認め合い大切にする人権尊重の町づくりを進め、安全は災害対策や交通安全、地域防災体制の充実に取り組む。安定は行財政の健全化に向け、効果的な施策により行政サービスの向上に努める。

④多様な資源を活かす元気なまち

1 地場産業（農・林・漁業）の振興強化。
2 農工商連携の具体的な取り組みである「大山恵みの里づくりプラン」の推進。

標高差を生かした周年出荷型農業、遊休農地対策、栽培型漁業の推進、森林の保全や、山、海の

レジャーや体験交流型観光産業の推進、大山ブランド品づくり等により地域活性化、若者定住、高齢者のやりがい生きがいづくりへの展開を考える。

⑤元気な町民・職員のみち

住民と行政が共に考え、住民視点に立った町づくりや町民の実践者組織育成・強化を進め、また、町職員のやる気と能力の向上を推進する。

これら施策の実現に向けて、住民・行政それぞれが役割を確認し、自覚し合い、できるところから一歩一歩着実に取り組む。地域活性化や住民の福祉向上に向け、子供たちの未来へ町民一丸となった自治体運営を目指す。限られた財源でも独自の施策を展開することで、町民の皆様から愛され、合併してよくなったと言える町づくりになると確信する。

6月定例議会で3つの特別委員会を設置

●議会改革調査特別委員会

目的 ■ 地方分権の時代にふさわしい議会のあり方を追求するため、調査・研究を行う。
委員長 ■ 椎木 学 副委員長/吉原美智恵
委員 ■ 鹿島 功・足立敏雄・野口昌作

●地域自治組織調査特別委員会

目的 ■ 過疎化、高齢化が進展するなか、限界集落の解消、地域の自立及び活性化に有用である地域自治組織について、調査・研究を行う。
委員長 ■ 近藤大介 副委員長/野口昌作
委員 ■ 西山富三郎・鹿島 功・椎木 学・諸遊壤司・西尾寿博・杉谷洋一・大森正治

●地域産業活性化調査特別委員会

目的 ■ 世界的な金融不況により、疲弊した地域産業、地域経済の活性化や回復をめざし、「地域活性化・公共投資臨時交付金」等を活用した振興方策について調査・研究を行う。
委員長 ■ 岡田 聰 副委員長/岩井美保子
委員 ■ 野口俊明・小原力三・足立敏雄・吉原美智恵・池田満正・米本隆記・竹口大紀